

週報

2007年 10月 7日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》 “イエスは弟子たちに言われた、「罪の誘惑が来ることは避けられない。しかし、それをきたらせる者は、わざわいである。」という御言葉から書き始められています。私たちが毎週、祈りとして捧げている“主の祈り”に“試み”という言葉が出てきますが、実にこの誘惑のことです。試みと言いますと、“試練”のような“苦しい目に合わせられる事”を思い浮かべることがあります。また“いざない”という言葉で示されるような“招き”を思い浮かべることがあります。“誘惑に誘われること”は誰でも知っています。まず、誰でもこの誘惑には陥りやすいということに心を留めましょう。聖書はローマ6章23節で“罪の支払う報酬は死である。”と言っています。1～2節と強い言葉が続きます。人の思いか、人の心に潜む悪か、いずれにしろ、誘惑は人を通して、あるいは、人と人との関係を通してやってきます。徹底的に“兄弟姉妹を悪に導いてはいけない”と御言葉は教えています。ところで2節にある“これらのちいさな者の一人”は何をさしているのでしょうか。教会の指導者にとっての兄弟をさしていることに気付きます。今で言いますと、教会役員の悔い改めと、赦しについて最も端的に示しているといえるでしょう。5～6節に進みましょう。弟子達も、主に対する信仰が、主の一方的な賜物であることは判っていたことは確かです。“増し加えて下さい”という言葉が示している通りです。“からし種”はとても小さな種ですが、どんなに小さなもののように見える信仰であっても、神のものである以上、無限の力があることを示しています。もし“からし種のような信仰”を未熟な、または“小さな信仰”と理解したら間違いです。“抜け出して海に植われ(6節)”という事が実現される以上に十分なのです。信仰の大きい・小さいということ、何かの理由にすることが間違いなのです。次の教えがそのことを物語ります。7節に進みましょう。“あなたがたのうちのだれかに、耕作か牧畜かをする僕があると。その僕が畑から帰って来たとき、彼に『すぐきて、食卓につきなさい』と言うだろうか。”という仮定です。私たち、特に信仰者として、長く教会生活をおくってきた者ですら“すぐきて、食卓につきなさい”と言ってもらいたくなる時があると、イエス様は教えておられるのでしょうか。このように思ったら小さな者の“つまずき”になることははっきりしています。“わたしたちはふつつかな僕です。すべき事をしたに過ぎません”と言えようになりますように(10節)。